

DAITO

## 廃プラ小型炉、工場向け増加 焼却実演中心に拡販へ

DAITO(愛知県瀬戸市)は、昨年3月に発売した廃プラスチック用焼却炉「SPⅡ」の販売が順調に推移、シリーズ累計販売数が50台を突破した。昨春以降、工場向けの売上が伸びていることから、商談展示会での焼却実演を中心に提案活動を強化する。

SPⅡは自治体への設置届出が不要な小型焼却炉。黒煙が出やすいプラスチックに特化したモデルとして、エアのバランスを見直し、燃焼効率を引き上げた。ラインアップは廃プラ主体の焼却能力で毎時7kgと12kgの2種類。新設計の集塵室を取り入れ、小型

化で設置スペースを減らしながら、消煙と塵の飛散を従来品と同等レベルに抑えた。井上滋樹社長は、「廃プラは燃えやすい分、炉内が高温になるため、寿命が短い」との指摘があった。そこでSPⅡは従来の構造を大幅に見直し、耐久性を向上させ

た。コストメリットを少しでも感じていただけるようにアピールしていきたい」と話す。本体と投入扉のすきまから出る未燃焼ガスを大幅にカットするために新型の扉を採用。行政から指導があった場合、同社

が責任を負う「構造基準適合保証」を付けた。昨秋にはシリーズ製品として、木くず・紙くみ向けの万能型タイプ「SPⅡ-500、600」などを相次いで市場投入している。

「昨年は商談展示会の出品を通じて、網や浮き玉を処理する目的で漁業関係への試験導入が決まった。食品加工業、畜産関係の引き合いも増えている。新規開拓の伸び代はまだまだある」と井上社長という。



商談展示会での焼却実演に力を入れている